

福井県における郷土史研究の動向

平成二十九年年度分

本会事務局

福井県立図書館郷土資料班編

はじめに

平成二十九年年度は、泰澄大師が白山を開山して一三〇〇年という記念の年にあたったため、白山や泰澄関連の書籍の発刊や企画展が相次いだ。

以下、平成二十九年年度に刊行された主な出版物を紹介し、県内郷土史研究の動向としたい。

一 歴史・自治体史・地域史・史跡調査報告書

勝山市教育委員会は明治以降の勝山の歴史を紹介する本『ものがたりかつやまの歴史 下』を発行、上・中巻と合わせシリーズが完了した。また『勝山市の石碑続』も刊行、前回調査から新たにみつかった約五〇基をまとめた。小浜市教育委員会は「西依家文書」の寄贈を受け『酒井家文庫等保存活用協議会報告 平成二十八年年度』

で紹介した。越前市教育委員会は『越前市史 資料編4』を刊行、福井藩の筆頭家老で府中領主本多富正の文書をまとめた。あわら市教育委員会は二〇一〇―二〇一六年に新たに指定された文化財一八件を掲載した『あわら市の文化財補遺』を発行した。大野古文書会は『寛政八年大野藩家老中村重助矩辰の日記』を発刊、焼却寸前の襖の下張りから発見された同日誌を解読している。武生古文書の基礎学習会は『武生古文書覚 第十八集』を発行した。江戸幕府が派遣する巡見使に備え、宿場となる屋敷を改修した話など地元歴史逸話を読み解く。いき出版は『写真アルバム坂井・あわら・奥越の昭和』を出版、同シリーズは五年前の『福井市の昭和』に続き二冊めとなる。『越前丸岡城と歴代城主 改訂版』が発行、故・宮本久氏の関係者が原稿をまとめている。中島辰男氏は『若狭路往還Ⅱふるさとからの歴史発信』を発行、これまでの講演記録をまとめた。

地域史も数多く出版された。福井市清水南地区の「片山の記憶研究会」は『片山の記憶―日野川と共に生きる―』を、東藤島壮年連絡協議会は『東藤島九十九景』を発刊した。大野市の郷土史研究グループ「小山荘歴史の会」は『山城は語る 旧大野郡城跡めぐり』の改訂版を発行し、四年かけて調査した辺境の中世の山城を盛り込んでいる。大関まちづくり協議会が出版した『さらさら田園大関』は、坂井市大関の歴史、人物など大関の今昔が詰まった一冊。越前市神山地区自治振興会は小冊子『馬借街道（府中西街道）ガイドブック』を作成した。北潟歴史探訪の会は『あわら市北潟村民誌』をまとめた。主な発掘報告書には、『本堂漆橋遺跡』『上蔵垣内遺跡』（福井県

埋蔵文化財調査センター)、『福井城跡XX』、『同 XX I』(福井市教育委員会)、『長崎遺跡』(坂井市教育委員会) などがある。

二 目録・人物・ガイドブック

福井県は霊峰白山の開山一三〇〇年を記念し、白山を開いた泰澄をテーマにしたガイドブック『時空をかける泰澄』を発行、ゆかりの神社仏閣、県内各地から望む白山の写真なども盛り込む。同時に『白山と泰澄』と題したDVDも作成した。県教育委員会は『ふると福井の先人一〇〇人』を出版、一般販売した。昨年六月に出版配付した同書に入手希望があり手直しした。福井県文書館は『福井藩士履歴5』を刊行、巻末に母利美和氏による解説が寄せられた。あわら市郷土歴史資料館は『あわらの殿様多賀谷左近』をまとめた。左近に関する歴史や年表のほか、石廟復元や史跡整備報告書も含む。清水恵美子氏は『洋々無限 岡倉天心・寛三と由三郎』(里文出版)を上梓した。天心の弟で英語学者の由三郎について着目した一冊。越知山泰澄塾は『越知山泰澄の道 No.5』を刊行。泰澄に関する研究コラムや記念事業をまとめた。吉川博和氏は『忠直に迫る―越前宰相の狂気と正気―』を刊行、日刊県民福井の連載を書籍化したもの。入江康太氏は『松平忠直の豊後隠居領と豊後随従家臣について』(『大分県地方史』二二九号)をまとめた。忠直の豊後隠居領の規模とその変遷などについて明らかにしている。松崎欣一氏は『杉田玄白晩年の世界』(慶應義塾大学出版会)を、片桐一男氏は『杉田玄

白評論集』(勉誠出版)を刊行した。小野之裕氏は『柴田勝家と支えた武将たち』(ゆいぽおと)を出版した。文献資料からその足跡を追い、ゆかりの地を訪ねる。

まちづくり福井は『ふくい by フクイ』を刊行した。福井の女性一六人による福井案内。福井県出身の人気声優蒼井翔太著『福井ノススメ』(小学館クリエイティブ)が刊行された。蒼井自らが福井を代表する名所を案内するガイドブック。京都ゼミナルハウスは『峠越え―西の鯖街道―』を出版し、小畑登氏(故人)が二〇年以前前に連載した『若狭街道探訪』を加筆修正している。

三 各分野団体史

各分野団体史では、敦賀気比高等学校『敦賀気比高等学校三十年史』、あわら市新郷小学校『休校記念誌 想いをつなぐ』、福井県高等学校野球連盟『福井県高校野球七十年史』、鯖江こころの電話『鯖江こころの電話三十年のあゆみ』、北信越地区空手道協議会『地空協創立四十年史』、青少年育成福井県民会議『青少年を見守り五十年ふくいの夢を育てます。』などが刊行された。

四 宗教・教育・民俗

勝山市は、最新の研究成果をまとめた『白山平泉寺 よみがえる宗教都市』(吉川弘文館)を発売した。白山信仰の源として栄華を

極めた平泉寺の全容を分かりやすくひもとく。坂井市教育委員会は『白山開山一三〇〇年 豊原寺シンポジウム』をまとめた。藝林会は『白山信仰』を特集テーマにした機関誌『藝林』二六六巻一号を発行。平泉隆房氏ら県内の研究者五人の発表を掲載する。三井紀生氏は『越知山開運講資料』を刊行、「大谷寺文書」のなかの「越知山開運講中」や「講の胆煎」など開運講の目的、趣法、講員の構成などを整理した。杉本泰俊氏は『中山寺の歴史』をまとめた。

福井市は『福女のススメ』を刊行、市内で活躍する二〇人の女性たちの仕事などについてまとめた。また一〇周年を迎えた郷土学習事業「福井学」を記念し、市内五〇の公民館の特徴ある活動をまとめた『福井市民の誇りGUIDE BOOK』を作成した。清川卓二氏らは『新時代のキャリア教育 学校と企業と地域をつなぐ』（東京書籍）を刊行し、福井県でのキャリア教育の事例を紹介をする。

あわら市教育委員会と市民グループ「活苔塾」は電子資料『あわらの民話』を作製し、三年前に同グループが出版した『あわらの民話』の二〇編を挿絵と福井弁の語りで収録する。土岐直彦氏は『若狭の聖水が奈良に湧く』（かもがわ出版）を刊行、奈良の「お水取り」と小浜の「お水送り」の謎に迫る。塩瀬博子氏は『越前若狭における渡来伝承の研究』を発行し、「アツポツシヤ」や「手杵祭」など県内各地の伝説や祭りなどの研究成果をまとめた。橋本裕之氏が刊行した『王の舞の演劇学的研究』（臨川書店）は、王の舞について最新の成果を集大成した一冊。

五 自然・医学

福井県立恐竜博物館監修で『福井県立恐竜博物館一〇〇』（講談社どうぶつアルバム）を発行した。県立恐竜博物館所蔵の骨格標本をもとに構成された子ども向け資料。上木康子氏は『失われゆくものたちの記録』を発行した。七年前に亡くなった夫・泰男氏が撮影した写真や調査結果をまとめたもの。福井大学医学部附属病院は『福井大学病院の得意な治療がわかる本』（バリユーメデイカル）を出版し、白血病や認知症など八四のテーマについて福井大学病院の体制や特色を解説している。

六 工業・土木・建築・家政学

小浜市教育委員会は市の指定文化財「旭座」の解体、移築復原工事の報告書『旭座』復原工事報告書』を発行した。ヒュージは福井市内のリノベーションによるまちづくりの事例を紹介した情報誌『FUKUI RENOVATION BOOK』を発刊、福井の魅力を発信するウェブメディアなどエリア再生を後押しする取組みも紹介する。永田康弘氏が発刊した『野の仏が起つときーあとから来る者のために』は、県内や福島県などで脱原発を訴える人たちの原稿やインタビューをまとめたもの。山崎隆敏氏は『なぜ、「原発で若狭の振興」は失敗したのか』（白馬社）を刊行。越前町教育委員会と福井県陶芸館は『越前焼たいら窯工房調査報告書』を発行した。

現代の窯業生産の実態を把握することにより、越前焼の製作技術の変遷を明らかにする。はたや記念館ゆめおれ勝山は『ミュージアムとまちづくり』を発行し、小浜のミュージアム先進事例を取り上げミュージアムからまちづくりについて考える。小柳岳志氏が発刊した『和の感性』は、現役の和食料理人である著者が四季の献立を美しい写真と共に紹介する一冊。

七 産業・芸術

福井商工会議所は『地域の商業・サービスの「生き残り戦略」調査報告書』を発刊、特徴的な取組みを行う小売店や飲食店など一五事業所を紹介する。渡邊誠氏は『福井鉄道二〇〇形』を出版。福井鉄道の歴史を五〇年以上支えた二〇〇形車両とそれを引き継ぐF一〇〇形「FUKURAMA」にいたるまでを丁寧を追う一冊。中西聡氏は『北前船の近代史 改訂増補』（成山堂書店）を発行した。補章として十九世紀の日本海海運を先導した北前船主による汽船経営への展開についてを追加した。また北国諒星氏は『北前船、されど北前船』（北海道出版企画センター）を刊行し、北前船について著者が特に興味深く感じた話題、逸話などを紹介する。

三井紀生氏がまとめた『越知山大権現の神仏と石造物』は、越知山関係の仏像や石像に特化した文化財台帳ともいえる一冊。越前町教育委員会は『越前幸若舞を知る一〇〇項』を発行した。巻末には年表や略系図がつく。黒田日出男氏は『岩佐又兵衛と松平忠直』（岩

波書店）を出版し、絵画史料論的アプローチから又兵衛の絵巻群を読み解いている。菴連也氏が発刊した『ロボブーマー』（風濤社）は、難病と闘う一六歳の著者によるイラスト集。北野武男氏が発行した『平泉寺有情』は、白山境内の四季の移ろいをまとめた写真集。

八 歴史研究施設の動向

最後に各施設の主な特別展を紹介する。福井県文書館は「明治ふくいのすがた―新聞と写真から」展、「ごめんね。ありがと。」展、福井県立歴史博物館は「越前若狭の医学史―福井の医人たち―」「泰澄―白山信仰における意義を探る―」、福井県立若狭歴史博物館は「むかしの道具―くらしとしごと―」、一乗谷朝倉氏遺跡史料館は「朝倉家臣団―重臣鳥居氏と堀江氏―」、福井県立美術館は開館四〇周年特別企画展「県立美術館名品二〇〇選」「狩野芳崖と四天王」、福井市立郷土歴史博物館は「刀に彫る」「さよなら、江戸幕府」、敦賀市立博物館は特別展「敦賀湊と北前船交易」、勝山城博物館は「白山のいざない―泰澄の開いた信仰の道と周辺の世界―」、織田歴史文化館は「泰澄・白山信仰ゆかりの神仏」をそれぞれ開催した。

以上、自分史など割愛した資料や、漏れた資料についてはお許しいただきたい。

（事務局 前田眞佐子）